

「癌」食べて治せ NO.10

乳酸菌が膀胱癌の再発を防ぐ

赤座英之
筑波大学臨床医学系教授

「癌」の予防は、第一に食生活、次いで「丹羽SOD様食品」

酸素は、私たちに必要不可欠なものです。しかし、酸素から過剰な活性酸素ができると、その酸化作用で細胞の膜や核を傷つけます。その結果、動脈硬化や糖尿病、癌など老年病を引き起こします。

癌を引き起こす主因といわれる活性酸素への対策は、先ず日常の食生活に注意することが先決です。本シリーズでは、食生活から見た「癌予防」のポイントについて掲載します。しかし、食事だけでは、癌を予防できないことも事実です。そこで、増加する活性酸素対策（癌予防対策）に、「丹羽SOD様作用食品」を摂取するの一方策です。

Q: 膀胱癌では、手術後の再発が課題といわれていますが、実状はどうなのでしょう？

A: 乳酸菌飲料といえば、子供の飲み物とされている人が多くかもしれない。しかし、乳酸菌飲料に含まれる乳酸桿菌は、膀胱癌の再発を防ぐ有力な物質として大きな期待を集めている。

膀胱癌は、再発率の高いことで知られている。癌が膀胱の粘膜にとどまった段階（表在性膀胱癌）ならば、膀胱を摘出しないで尿道から挿入した内視鏡で癌を切除できる。おかげで前と同じように排尿できるのだが、残っている膀胱から癌が高率に再発してくるのだ。

赤座教授によると、再発率は年に50%。1年に半分の人が再発することになる。「これをどう防くかが問

日本SOD研究会がおとどけする

健康増進と病気・老化予防のQ&A

No. 22

FUJI MARKETING SYSTEM

このQ&Aは、病気の90%に関するといわれる活性酸素、活性酸素を除去する丹羽SOD様食品など、さまざまな症状や疾患について、最新の情報を掲載しています。定期的に発行されますので、毎号お集めになりますと、健康管理ノートができます。このQ&Aは、最寄りの丹羽SOD様食品取扱店でお求めになれます。

題なのです。
再発には2種類ある。
膀胱癌の再発：取り残し

ひとつは、癌の取り残しや前癌病変の成長によって起こる再発である。膀胱癌は多発性で、いくつもの癌ができていくことが多い。その中には、手術の時点では、目に見えない小さな癌や前癌病変

目次

膀胱癌では、再発が課題
乳酸桿菌を用いた療法は？
乳酸菌飲料による実験
ピオラクチス散による実験
ピオラクチス散の可能性は？

SOD製剤による臨床報告
悪性リンパ腫が完全消失

も含まれている。こうした癌の取り残しが、やがて成長し、癌として現れる。

膀胱癌の再発 ・原発性のもの

もう一つは、二次性の原発癌である。膀胱癌になった人は、何かの発癌要因をもつと考えられる。

したがって、100%癌を切除できても、新たな癌が膀胱に出来る可能性が高いのである。

Q：膀胱癌のBCG療法は副作用が強いなどの問題がある、といわれていますが、より新しい、乳酸菌飲料に含まれる乳酸桿菌を用いた療法はどうでしょうか？

A：新たに膀胱にできる二次癌に対しては、これまで有効な予防方法がなかった。その予防に、大きな期待を集めているのが乳酸菌飲料に含ま

れる乳酸桿菌なのである。

偶然に発見された乳酸菌の効果

癌予防食品は、食品成分を探索して見つけられることが多い。ところが、乳酸桿菌は、現実に膀胱癌になった患者の日常生活が発見の糸口になった珍しい例だ。

話は、十数年前にさかのぼる。ある病院に膀胱肉腫（膀胱癌の一種）のおばあさんが入院していた。何度摘出しても、膀胱肉腫が再発していたのだが、不思議なことに全く転移がない。注意してみると、このおばあさんは乳酸菌飲料が好物で、まぐら元並べて一日に何本も飲んでいました。

Q：膀胱癌に対する、乳酸桿菌を用いた実験はどのように進行していますか？

A：主治医は、この乳酸菌飲料に癌が転移しない何かの原因があるのではないか、と直観したのである。

乳酸菌飲料によるマウスの実験

そこで、主治医は、この膀胱癌細胞の提供を受けてネズミに移植。一方のグループに乳酸菌飲料を飲ませてみた。すると、**乳酸菌飲料**



を飲んでいたネズミは癌の生育が遅い、という結果が出たのである。

乳酸菌飲料というごく身近な飲み物で、癌の成長が抑えられるのだろうか。意外な結果に驚いた主治医の上司は、本格的な研究に取り組み出した。

乳酸桿菌による臨床実験

自分が担当する膀胱癌の患者に協力してもらい、一方の人たちには従来通りの治療を、もう一方の人たちには乳酸菌飲料に含まれる乳酸桿菌を乾燥させた粉末「ピオラクチス散」を飲んでもらった。

ピオラクチス散は酸に強く、飲んでも胃酸に殺されずに、腸の中に入っていく。そして、腸内細菌のバランスを良くするというので、昔から整腸剤として使われてきたものだ。対象とした患者数は少なかったが

このテストで「ピオラクチス散」を飲んでいた患者は、膀胱癌の再発が少ないという結果が出た。

乳酸桿菌による臨床実験

乳酸桿菌を乾燥させたピオラクチス散を飲んでいた患者は、膀胱癌の再発が少ない。この結果を得て、本格的な研究が始まった。

今回は、参加施設も多く、より科学的な手法で試験が行われた。膀胱癌の患者に了解を得て実験は行われた。

ピオラクチス散の実験

癌の切除後、一日3gのピオラクチス散を飲んでもらった。一日3gのピオラクチス散は、代表的な乳酸菌飲料にすると3本分に相当する。すると、やはりピオラクチス散を飲んでいてグループでは、癌の再発率が低く抑えられていた。

ピオラクチス散の実験

そこで、次に再発の危険度別に試験（二重盲検試験）が行われた。初めての膀胱癌で癌が1個だけ初めての癌でも多発している再発で癌が1個だけ再発で癌が多発している





から になるに従って再発の危険性が高くなる。は再発の危険度が低いので除外し、残りの 群で、同じように一方にはピオラクチス散を飲んでもらった。もう一方には、比較のために偽薬を飲んでもらった。

そして、定期的な内視鏡検査をして2年半後。

とのグループ(つまり中程度に再発の危険性が高いグループ)：ピオラクチス散を飲んでみると再発率が明らかに低く抑えられていた。さらに、「普通は再発の度に癌細胞の悪性度が高くなっていくのですが、ピオラクチス散を飲んでみると、再発しても悪性度が高くなるケースが少なかった」という。

むしろ、再発しても、癌細胞の悪性度は低く

なる傾向さえあったという。

のグループ(最も再発の危険度が高い、つまり再発でかつ多発性の膀胱癌)：残念ながらピオラクチス散を飲んでいても、再発率に差はなかった。

赤座教授は、その原因を「このグループ群の場合、原発性二次癌という色合いも濃いのですが、癌の取り残し、つまり手術の時点で肉眼的に見えなかった小さな癌や前癌病変が成長して再発したという要素が大きいのだ、と思えます」と考えている。

Q：膀胱癌だけでなく、他の癌に対する「ピオラクチス散」の効果は検討されていますか？

A：「腸内細菌が悪さをするという意味ならば、膀胱癌より大腸癌の方が影響は大きいはず。とすれば、ピオラクチス散は膀胱癌の再発だけではなく、大腸癌や肺癌、子宮癌などにも効果があるかもしれない」という。

ピオラクチス散は、乳酸菌飲料に含まれているぐらいだから、毒性がないことも強み。膀胱癌だけではなく、ほかの癌でも予防効果が期待される。



本文は「癌」食べて治せ(日刊スポーツ・No.31・32・33・34)から、抜粋・引用しました。

バックナンバーについて
日本SOD研究会では、これまでに発行した「Q&A」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会(〇四九二(五五)八七二八FAX兼用)までご連絡ください。



命と健康のために SODロイヤル

SODロイヤル(丹羽SOD様食品)は、丹羽博士が長年をかけて開発した、天然の植物・種子を素材にした天然製剤で、副作用などの心配は皆無の健康食品です。

国際製法特許取得

SOD製剤による臨床報告

本症例はすべて、丹羽博士が院長を務める土佐清水病院での、末期癌を含めた重症の癌患者の症例です。博士が長年かけて研究開発した**天然SOD製剤BG104**および**天然低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)**を治療の主体とした症例を掲載しています。小誌の掲載内容は、丹羽博士の著書「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」から、抜粋・引用しました。治療の詳細を知りたい方は同書を参考にしてください。

二ヶ月で、

悪性リンパ腫が完全消失

T・Y 62歳 男性 悪性リンパ腫

【現症ならびに来院時所見】

平成四年一〇月頃より微熱が続き、某大病院で悪性リンパ腫の診断を受け、平成五年一月当院に来院。来院時には右頸部に鶏卵大の硬いリンパ節腫脹を触れ、咳嗽(がいそう)、喀痰(かくたん)強く、抗癌剤による顔色不良が目立ち、胸部レントゲンにて右肺門部と左肺尖右側に瀰漫性(びまんせい)の陰影を認めた。腫瘍マーカーもIAP¹⁰⁵⁵、フェリチン²⁷⁵と高値を示していた。BG¹⁰⁴と低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)を所定の量

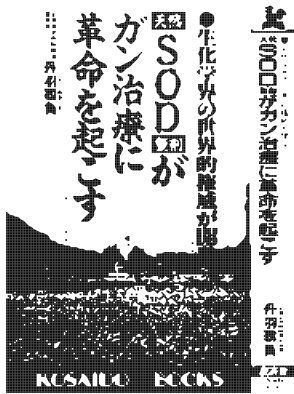
(省略)投与した。

【臨床経過】

二ヶ月後の平成五年三月より急速にマーカーの低下、正常化が始まり、同年七月には頸部リンパ節腫脹も縮小し、JAPが⁴⁹⁸、フェリチン^{86.6}となった。さらに、同年一月には顔色も回復し、時折見られた微熱もなくなり、頸部リンパ節腫脹もほぼ消失し、マーカーもさらに減少、正常化を示し、胸部の異常陰影も減少傾向を示した。平成七年三月には、マーカーもすべて正常化、熱発もみられず、頸部リンパ節腫脹も完全に消失した。

【考察と結論】

本症例は臨床症状および多角的所見(リンパ節腫脹、マーカー値、胸部レントゲン)などが、丹羽療法で急速に改善されており、著効を示した症例というに異論はないと思われる。



丹羽博士が長年をかけて研究・開発し、多くの学会や研究機関で臨床成績が確認されているSODロイヤル(丹羽SOD様食品)を始めたとする、活性酸素を除去するルイボスTX、スーパールイボスティ、SODナチュラルクリームなどは、下記の取扱店でお求めになれます。



[当商品には合成着色料・合成保存料は使用していません]

お問い合わせ先

製造・発売元
株式会社フジ流通システム
埼玉県富士見市鶴馬3489-1